

# 長期ビジョンストーリー 「〇〇の30年後のありたい姿」

第3回部会 意見交換用資料

～ 〇〇の30年後のありたい姿と  
それを実現するための施策・方向性 ～

## 【モノづくり集積都市として環日本海経済圏で確固たる地位を築いた富山県】

私は現在67歳。富山県でモノづくりに携わるようになってすでに40年余りが経過した。富山空港からはアジアの国々へ直行便が就航しており、その一部には国産初のジェット旅客機として1000機以上製造されたMRJの後継機種も運用されている。富山で製造された製品の販路開拓・販路拡大を狙って、ほぼ毎週のように富山空港から海外へ出張している。



「くすりの富山」として医薬品出荷高は自社製造および委託製造を含め国内では断トツのトップ、アジアでも指折りの医薬品製造都市としての地位を確立した富山県。県内には原料やパッケージなどの主資材をつくる会社も多数存在すると同時に、打錠機をはじめとする医薬品製造用の設備などの副資材をつくる会社も育成されて、まさに「くすりの一大城下町」として強みを発揮している。また、そのような地の利に価値を見出した海外の大手医薬品メーカーも工場進出を果たした。



金属加工においては2010年代には最もウエイトの高かった自動車産業から脱却を果たし、航空宇宙、エネルギー、医療などへの参入を果たした県内中小企業がネットワークを構築し、個々の強みを生かしお互いを補完しながら営業活動を展開している。他県においてはモノづくり人財の不足が続く事業の継続が困難となった中小企業が多く存在する中で、富山県においては2010年に始めたモノづくり人財育成事業によって優秀な人財の採用に全く苦労することはない。

東京大学と富山大学との共同研究によって進めてきた宇宙線研究は大きな成果を見せ、多数のノーベル賞受賞者を輩出した。そんな研究者たちが多数住居を構え、またそこで使用する研究設備などを製造する富山県はまさに宇宙研究の県としても全国的に有名になった。

### 経済

- 海外医薬品製造業の集積を図るための企業立地助成制度の創設
- 政府系医薬品関連機関の継続的誘致活動
- 県内事業者への発注金額による減税等の検討
- モノづくり中小企業ネットワーク構築のための支援

### 文化

- 富山県をイメージしてもらうための国内外へのブランディング（Ex.健康、富山＝宇宙など）

### 人づくり

- 富山県ならではのキャリア教育の推進（モノづくり教育）
- 富山のモノづくりで働きたくなるドラマの自主制作を通じた全国PR
- モノづくり人財育成事業

# [藤井大輔]の30年後のありたい姿

## 【認知症が少なく社会的貢献度が高い人たちがいきいきと築く、寛容で豊かな富山県】

私は現在73歳。富山県内の65歳以上高齢者率は40%に迫る勢いだが、そのうち認知症を発症している人は5%を切っている。30年前は15%を超えたと大きなニュースになっていたが、早期発見のMCI検診および保健師・看護師による「脳と体の健康モニタリング」が40代以上を対象に定期的実施されたこと、予防医学・予防サプリメントの発達により県内の健康寿命は80歳へと延伸した。病院には「なにかが起こってから」行くのではなく、「なにかが起こる前に」行くことが当たり前となり、慢性期の医療費は2010年に比べ1/2にまで削減された。

要介護認定を受けなければ利用できなかった介護保険だが、むしろ要介護認定を受けていない65歳以上高齢者への特典が大きくひろがり「認定を受けない方がお得な生活」ができるようになってきている。いまや携帯電話もネットの通信費も車の維持費すら、私はほとんど無料で使える。民間事業者が、マーケットの大半を占める高齢者の中でも、自律・自立している高齢者向けのマーケティングを重視するようになったためだ。脳健康と体健康の測定値に加え、社会的な貢献度に応じたソーシャルキャピタルポイント（SCP）が多い人ほど、お得に生活ができるようになってきている。おかげさまで、私のSCPランクはダイヤモンドメンバーだ。これを維持するために、今年も自身の健康増進と精力的な地域のネットワーク活動・郷土文化の継承をしっかりとやらなければ。現金だと思われるかもしれないが、やはり奉仕の心だけではやる気は継続できない。富山県は日本の中でも、ソーシャルキャピタルポイント保有数が最も多く、早くから健康予防事業参入への規制緩和、豊かな郷土資源（産業・自然・文化）の再定義と整備、教育投資を行ったからだとされている。おかげで富山の水循環食文化はヘルスクエアフードとして世界的ブランドとなり、TOYAMAは「社会貢献度の高い人が寛容で豊かに暮らすエリア」の代名詞となっている。

私は富山を拠点にしながら、東京、ホーチミン、ナポリにシェアハウスを持っている。今は芥川賞を本気で目指して小説のプロットを作っているところだ。テーマは「喪失と再生」「平等と不平等」。いろんな場所に移動・移住し人間の本質に触れ、70代にしてようやく納得できる小説が書けそうな気がする。



### 経済

- 健康予防事業参入への規制緩和
- 介護保険制度とは異なる互助プラットフォームの設計（例：ソーシャルキャピタルポイント）
- 地域ネットワーク活性および効率化、ITC化へのベンチャー起業支援
- グローバル発信のためのデザインセンター強化
- ヘルスクエア型観光の推進
- 子育て女性・高齢者の就労機会を増やす

### 文化

- 地域文化（地元愛）の振興・継承推進
- グローバル発信のためデザインセンター強化
- 伝統工芸・文化と若い人をつなぐ交流型コンテンツの推進
- 水循環食文化のブランド化（兼業農家率、水田率一位の支援、立山連峰と富山湾の新たな魅力創出など）

### 人づくり

- グローバル＆ローカルの両輪な人材教育
- 認知症予防、予防医学薬学のスペシャリスト人材を県内大学・企業に集積
- 富山の郷土資源を学ぶカリキュラムの強化
- 富山県ならではのキャリア教育、地元で働きたくなるマインド作り

# [ 中林 研一 ]の30年後のありたい姿

## 【くすり産業を基盤とした、人々との絆・多様性が尊重される精神的満足度が高い富山県】

私は現在62歳。定年まで勤めた会社に週3日ほどの手伝いに行くほかは、もっぱら孫の面倒を見るのがいまの生活スタイルであり、孫の笑顔が私自身の大きな活力となっている。私が子育て世代であった30年前にはなかった全天候型のアスレチック施設など、荒天時でも子供が全力で走り回れる施設が増え、大変ありがたい。

思えば、ハンディキャップを抱えた人間であっても、社会の一員として認められ自律した社会生活を送れることは、なんて素晴らしいことだろう。わが子がハンディキャップを抱えていると知った時、その将来を案じたものだ。しかしながら、わが子が希望の職に就き、私が孫と接することができるのも（わが子の努力もさることながら）、富山県全体として、人々との絆を重んじ、多様性を許容し尊重する風土が確立されたことが大きい。この風土は、幼少期から富山型教育として、通常の学業に加え、人との絆や多様性尊重を重要視し、様々なキャリア教育や郷土愛醸成を充実させたことにより育まれた。おかげで、育児・介護の地域包括ケア制度も軌道に乗っている。

とはいえ、教育を充実させるには少くない投資が不可欠となるが、富山県では、「くすり王国＝富山」の再構築が投資を可能とさせた。県有財産の積極的活用や、絆や多様性を尊重する県民性もあり、30年前から推進された医薬品関連の政府機関や高度な民間研究施設の誘致、薬学教育の強化といった産官学一体となった取組みが功を奏し、くすり関連産業が更に発展。県の税収は大幅に増え、この教育プログラムも含め、高校教育までが無償で提供されるに至った。また、県民の所得も全国トップレベルを維持している。

今では、富山が「豊かな心を持った人が集まり、精神的に満たされ充実した日々を過ごせる地域」として世界的に認知され、人間の内面をも高める教育環境・手厚い子育て支援も全国的な評価は高く、人口の移動均衡が達成されてずいぶん久しい。勿論、ヘルスケア集積地として、世界的拠点となっていることはいうまでもない。

私自身、70歳を見据えやりたいことがある。親や祖父母が、子や孫に形見として渡せるようなモノを扱う店を開くことだ。この富山で家族全員が人とのつながりの中で生かされ育まれてきたことへの感謝である。

人生の総仕上げ。唯一無二の故郷で、大切な人々との絆を感じ、日々を過ごすことは何ものにも代えがたい。



### 経済

- 高齢者就労促進のための環境整備
- 社会的ニーズの高い、多様な働き方への対応
- 自然環境を克服する子育て設備の充実
- くすり集積に向けた産官学の連係
- シニア層の起業支援
- 企業立地・人口移住促進のための県有財産の積極的活用
- 高校教育までの無償化

### 文化

- 文化施設と子育て施設のドッキング⇒文化・伝統に触れる絶対的回数を増加
- 全天候型の文化・スポーツ施設などの整備
- 県内への移住促進につながる日本内外への文化的魅力発信

### 人づくり

- 多様性を許容・尊重できる人づくり
- 富山の産業的強みを学び・活かす・結びつけるキャリア教育
- 地域に根差した育児介護支援制度の整備
- 薬学のスペシャリスト人材の集積
- 富山ならではの内面教育・郷土愛醸成への積極的投資

## 【強みを生かして成長を続ける富山県】

私は現在65歳。私の周りは、みんなお年寄りで、私はまだ年寄りのヒョッコのようなものだ。とはいえ、30年前の年寄りと、今の年寄りは比べるまでもない。大抵の人は75歳まで働いている。県が地域の医薬品製造業者と協力して進めてきた健康増進プログラムによって、みんな元気に過ごしているからだ。お蔭で、富山県の労働者人口は、全国で唯一、30年前を上回っている。

かく言う私も、まだ働いている。流石に第一線の営業は体力が持たないが、県と地域の有力企業が共同出資で設立したベンチャー育成機関のアドバイザーとして、開発された技術の売込や、資金調達（上場を含む）の支援（投出融資／資本集め）を行っている。ベンチャー育成機関によって、地場企業のオープンイノベーションが定着し、“儲かる技術”を見える化したことにより、最近は引切り無しに相談が舞込む。忙しいったらありがたい。うれしい悲鳴だ。そういえば、富山県での創業社数が廃業社数を上回って10年程経つか。地場の豊かな経済産業を背景にしており、他ではなかなかマネできない。

3人の娘は全員結婚し、孫もいる。みんな共働きだ。富山県内全域にWifi環境が整えられたので、育児中で出勤できなくても、常に会社と繋がり、仕事はできている。それに、富山県が英語教育に力を入れたおかげで、海外とのコミュニケーションも達者だ。また、子供の数に応じて、交通機関や行政サービス、税金が安くなったり、貰えるお金が増えるので、むしろ子供がいる方が、経済的な生活が豊かになるらしく、まだ子供を作りたいようだ。富山県の出生率も、2045年に2.5になった。孫が増えるのは、大変うれしく思っている。良い世の中だ。

それにしても、「日本イチの高低差を味わう」を打ち出し、日帰り、雄山登山から富山湾深海を潜水するツアーは、スタートから20年たっても人気は衰えず、毎年500万人以上の観光客を呼び込んでいる。これが出来るまでは、富山は通過県だったが、今では金沢⇄富山は2泊が当たり前になっている。外国人も増え、伝統産業も脚光を浴び、観光振興自体も大きく盛り上がった。オンリーワンは、やはり強い。

妻は、はやく引退してゆっくりして欲しいらしい。でも、まだまだ。80歳までは頑張れる。でも、引退したら、海外旅行くらいには連れて行きたいかな。



### 経済

- 健康寿命延伸に向けた取組み  
→ 医薬品業者との連携／スポーツ振興  
体調管理アプリ等
- ベンチャー投資育成機関の設立  
→ 受け身ではなく、攻める組織／地場有力  
企業との協業
- IT環境整備
- 仕事と子育てを両立する世帯への支援拡大

### 文化

- 物理的に富山県にしかできないアトラクション  
の開発／資本投下／運用  
→ “伝統産業”は大切な付加価値だが、それ  
だけでは人は集まらない
- 地場PRにおける統一ブランドの創造  
→ 統一感によるイメージ向上
- 外国人への耐性強化  
→ 留学派遣・受入／案内標示

### 人づくり

- 英語教育／IT教育の充実
- 予防医療の知識普及
- 閉鎖的にならない、オープンな考えを持てる人  
材の育成  
→ デイバート／議論の取入れ

## 【シニア世代、女性がいきいき輝ける富山県】

私は現在65歳。定年制が廃止され、仕事は現役。フルタイムで働いている。私の周りには70歳を超えて働いている者も多い。富山県は健康寿命延伸に向けた取り組みを推進しているの、富山県には元気な人がいっぱい。

私の娘は第一子を出産した後も仕事を継続しており、孫は保育所に行き始めた。いまとなつては、全国的に女性が働くことは当たり前で、中でも富山県は共働き率全国 No.1。出生率も2.5と高い。富山県は子供がいても仕事をしながらいきいき輝けるように、仕事と育児を両立するための支援制度が整っている。例えば、病児保育が併設されている保育所が当たり前で、安心して仕事ができるそう。お休みの日には、子供から高齢者まで楽しめる全天候型の文化・スポーツ施設を利用して、孫と娘と一緒に遊んでいる。そこで英語を無料で教わることができるのだ。富山県に観光で来られた外国の方が富山に魅了され、住み着いて講師となっている。保育所でも英語を週1回教わるらしく、ほぼ毎日英語を勉強している孫のほうで英語が堪能。富山県は海外からの観光産業を推進しているの、英語教育にかなり力を入れていることが関係しているらしい。この施設では、楽しく運動ができ、文化・教養を身に付けられるとあって大変人気の施設となっている。

また、富山版キッズニア（子供の就業体験）もできたので、そちらもよく利用している。富山県内の企業が協賛しており、その企業の就業体験ができるのだ。大盛況で、県内に3か所もできた。平日は仕事、休日は孫と外出で毎日が忙しいがとても充実した日々を過ごしている。65歳から70歳まではパート、70歳にはリタイヤして主人と旅行を楽しみたい。



※キッズニア東京HPより

### 経済

- 子育て女性・高齢者の就労機会を増やす
- 仕事と子育てを両立する世帯への支援拡大

### 文化

- 文化施設と子育て施設のドッキング（文化・伝統に触れる絶対的回数の増加）
- 自然環境を克服する子育て設備の充実、全天候型の文化・スポーツ施設などの整備

### 人づくり

- 富山県ならではのキャリア教育の推進、地元で働きたくなるマインドづくり（モノづくり教育、生徒が興味関心のある職種人を招いたブース、仕事体験などのフォーラム開催など）
- 育児や介護を地域単位で支援する制度の整備
- 健康寿命延伸に向けた取り組み

## 【女性の労働力の引上げで潜在成長率を維持した富山県】

私は現在72歳。銀行を引退して数年が経ち、妻と趣味を楽しみながら孫の世話を生きがいとしている。見渡すと、富山県には若い世代の労働力人口が増加している。とりわけ女性の就業者が30年前を上回り生産年齢人口が増加している。富山は仕事と子育てが両立できる県として、すっかりイメージが定着した。育児や介護を地域単位で支援する整備が進み奏功したからだ。地域コミュニティの中で、私も地域の若者に支えられながら彼らの子どもをお世話しお互いが補完し合っている。

富山のモノづくりは進化を続け、医薬品分野では政府系機関の誘致に成功し産学官金連携が一気に加速した。薬学のトップクラス人材が集結し、「日本のバーゼル」と呼ばれるまで成長した。金属、機械、電子部品分野と共に富山の二次産業を依然支えている。

他県は今なお人口減少に歯止めが掛からず経済は危機的状況にあるが、富山県は人口減少に対し、女性の労働力人口を引き上げることで潜在成長率を維持しようとした。県は民間と共に「女性」の就業機会創出のため、三次産業を誘致することに注力した。県有財産などは本社として無償貸与され、都会の企業が移転してくれた。その結果、若い世代の女性がUターンし始めた。現在も、県内総生産は緩やかに増加している。

専門学校や大学も増え学生が集まり始めた。県の誘致活動で専門学校が開校し、県内の国公立、私立大学も産業構造と共に変化してきた。最近では女子学生を意識した学校、学部が増えている。これらの卒業生が、県内の三次産業へ就職し県外転出が減少しているようだ。私の孫たちも県内に進学し就職してくれた。富山の産業の強みを学び・活かす・結びつけるキャリア教育も効果があったようだ。

女性の増加が若い世帯の増加に繋がり子どもを産む数は増えてきたようだ。私も多くの孫に囲まれて幸せな日々を送っている。孫を連れて、近所にできた商業・娯楽施設に出かけたり、伝統文化の魅力を体感できる場所に行っては、富山に生まれ、富山で働き、富山で暮らして良かったとしみじみと思いを巡らせる。



## 経済

- ▶ 女性の就業機会創出のため、三次産業の誘致
- ▶ 子育て女性の就労機会を増やす
- ▶ 産業構造に合わせ学校・学部の新設や拡充
- ▶ 企業立地、人口移住のため県有財産の活用
- ▶ くすり集積に向けた産学官金連携、政府系機関の連携
- ▶ 薬学トップクラス人材の集積

## 文化

- 県民が伝統文化を身近に感じられる環境整備
- 若者が魅力を感じる商業・娯楽施設の創出

## 人づくり

- 育児や介護を地域単位で支援する制度の整備
- 富山の産業的強みを学び・活かす・結びつけるキャリア教育